

■第1シードブロック 常葉橘投打に充実

第1シード常葉橘のブロックに入った第5シード静岡、島田商、静岡商、静岡東などは高い投手力を誇る。春の東海を制した橘は最速144キロの右腕谷脇に加え2年の右腕鈴木楓が台頭。打線も力強さを増している。

4強争いで橘に対抗しそうなのは、最速145キロの本格派横尾と技巧派平湯の右腕2枚をそろえる静岡と緩急巧みな投球で三振を量産する左腕北川を擁する島田商か。静岡商は河合、遠藤ら投手陣の出来が鍵を握るだろう。昨秋、今春ともに県大会に出場した富士や、昨秋8強の浜名なども上位争いに絡んできそうだ。

■第2シードブロック 左の好投手そろそろ

第2シード日大三島のブロックには第5シード三島南が入った。このほか知徳浜松開誠館、浜松市立といった左の好投手を擁するチームがそろった。

日大三島は、ともに最速141キロの右腕中川と左腕海野の左右2本柱が盤石。2年の海野は大会屈指の左腕の呼び声が高い。知徳は平林、森伊の左腕2人の継投が特徴。浜松開誠館には飯田、小原ら左の二枚看板が、浜松市立は昨夏8強の立役者、左腕井内がいる。

三島南は丁寧に内角を突く蜂屋、鈴木穂の両右腕を擁し、機動力も持ち味。磐田東、富士市立、袋井なども上位をうかがう。

■**菰山（チーム紹介記事）第2シードブロック内**

機動力を生かした攻撃野球が特徴。橋本一と藤沢の1、2番が出塁し、中軸で走者をかえすのが得点パターン。江塚は器用な打者。高嶋、加藤は長打力が魅力。チーム全体で常に次の塁を狙う姿勢を徹底する。投手陣は制球力が光る左腕橋本雄を軸に強気な投球ができる右腕佐々木が控える。遊撃手江塚、右翼手橋本一が守備のキーマン。限られた時間で練習し、「文武両道」を目指す。

【成績】昨夏3回戦、今春地区2回戦（初戦【目標】全国制覇

■第3シードブロック 静岡筆頭も激戦区

3連覇を狙う第3シード静岡のブロックは第5シード掛川西や、浜松商、浜松工などの伝統校と、藤枝明誠、加藤学園、飛龍などの実力校がひしめく。

静岡は腰痛で春の公式戦を欠場した主戦村木が復調し、右の強打者古川が存在感を増している。藤枝明誠は通算本塁打50本の伊藤に注目が集まる。昨秋の県覇者・掛川西は、春の登板がなかった主戦川合が本領を発揮できるか。昨夏準優勝の飛龍と、菊川南陵との初戦は好ゲームが期待される。加藤学園は今瀬、井岡らタイプ異なる右腕2枚を擁し、浜松商は捕手尾浜が攻守の要。

■第4シードブロック 翔洋軸に混戦模様

第4シード東海大翔洋のブロックは翔洋のほか、創部8年目の初シード浜松修学舎最強のノーシードと恐れられる常葉菊川を軸に混戦となりそうだ。

翔洋は最速141キロの右腕石倉が春の県大会で19回を投げて自責点ゼロ守備は堅いだけに打線のつながりが鍵になりそうだ。

県上位常連になった浜松修学舎は辻岡、森田ら経験豊富な主力が引っ張る。常葉菊川打線は通算本塁打45本の栗原を筆頭に、どこからでも一発が出る。打ち勝つ野球を掲げる浜松西、昨夏4強の磐田南のほか静岡市立、静岡学園、駿河総合などの戦いぶりも注目だ。